



国総施第 93号
 国総建第 166号
 国総振第 104号
 平成17年10月 4日

社団法人
 日本建設機械化協会 会長 殿

国土交通省総合政策局 建設施工企画課長



国土交通省総合政策局 建設業課長



国土交通省総合政策局 建設振興課長



リコールの届け出に伴う建設機械の事故防止について（9月分）

今般、国土交通省に対し、下記のリコールの届出がなされたところであるが、建設作業現場における当該建設機械の使用に際しては、事故防止の観点から貴団体傘下の会員各社に対し周知されたい。

記

- 1. 届 出 日 別紙のとおり
- 2. 届 出 者 〃
- 3. 建 設 機 械 名 〃
- 4. 通 称 名 〃
- 5. 型 式 〃
- 6. 不 具 合 の 部 位 〃
- 7. 内 容 〃

※国土交通省のホームページに「リコール・改善対策の届け出」があったものを掲載しております。アドレスは下記のとおりです。

http://www.mlit.go.jp/jidosha/recall/recall105/recall_.html

建設機械に係わるリコール届出一覧 (期間:平成17年9月分)

| 番号 | 届出日 | 届出者 | 建設機械名 | 通称名 | 型式 | 不具合の部位 | リコール対象台数 |
|----|------------|--------------|--------------|--|--|-------------------------|----------|
| 1 | 平成17年9月14日 | (株)小松製作所 | ショベルローダ | WA100-5 | W108,SB-W108 | 動力伝達装置 (静油圧変速機モータ) | 603台 |
| 2 | 平成17年9月15日 | (株)タダノ | ホイール・クレーン | GREVO 120 | TR120 | 原動機 | 24台 |
| 3 | 平成17年9月22日 | (株)小松製作所 | ショベルローダ | WA270-5,WA320-5,WA200-5 | W104,SC-W104,W105,SC-W105,W109,SC-W109 | かじ取装置 (かじ取シリンダ油圧ホース) | 647台 |
| 4 | 平成17年9月22日 | (株)小松製作所 | グレーダ・ショベルローダ | GD305A-3,GD355A-3,GD405A-3,GD505A-3,PW128UU-1,WA100-3,WA100M-3,WA150-3,WA200-3,WA250-3,WA300-3,WA80-3,WR11-3 | G30A2,G40A3,G50A3E,PW1281,W057,W081,W058,W059,W067,W065,W083 | 原動機 (コネクティングロッド) | 462台 |
| 5 | 平成17年9月22日 | 小松フォークリフト(株) | フォークリフト | FD35NT-7,FD35NW-7,FD35T-7,FD35W-7,FD40T-7,FD45T-7,FD45W-7,FD50AT-7,FD50HD-7,FD80HD-7,FD70HD-7,FD80HD-7 | M161,M163,M165,M166,M167 | 原動機 (コネクティングロッド) | 37台 |
| 6 | 平成17年9月30日 | (株)タダノ | ホイール・クレーン | GREVO120 | TR120 | 原動機 | 290台 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

※詳細は別添の「リコール届け出一覧表」を参照して下さい。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日:平成 17年 9月 14日

| | | | |
|----------------------------------|---|---|---------------|
| リコール届出番号 | 1516 | リコール開始日 | 平成 17年 9月 14日 |
| 届出者の氏名又は名称 | 株式会社 小松製作所 代表取締役社長 坂根 正弘 | 製作者名:株式会社 小松製作所 問い合わせ先:品質保証部 03-5561-2686 | |
| 不適合の部位(部品名) | 動力伝達装置(静油圧変速機モータ) | | |
| 基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因 | 静油圧変速機モータのピストンの強度が不足しているため、急な前後進の切換え操作を行うような走行を繰り返すと、当該ピストンが破損するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合、ピストンがシリンダブロックからはずれ、走行できなくなるおそれがある。 | | |
| 改善措置の内容 | 全車両、静油圧変速機モーター式及びコントローラを対策品に交換する。 | | |
| 不 具 合 件 数 | 17件 | 事故の有無 | 無し |
| 発 見 の 動 機 | 市場からの情報による。 | | |
| 自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用者を全て把握しており、直接電話等で連絡する。 ・ 使用者を全て把握しているので自動車分解整備事業者に周知のための措置は特にとらない。 ・ 対策完了車には、ステッカ(No.1516)をキャブ内側の後部窓左下に貼り付ける。 | | |

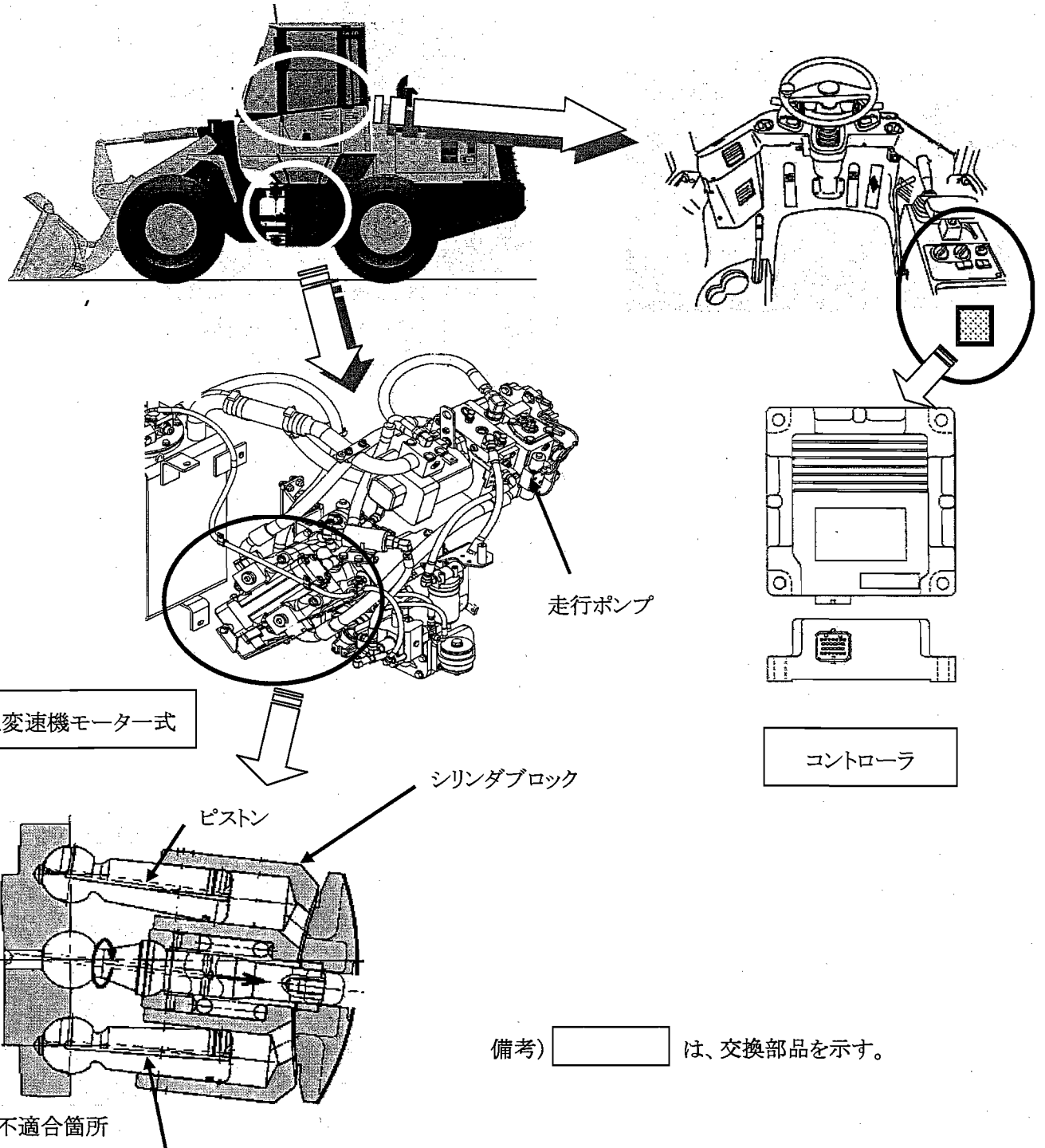
| 車 名 | 型 式 | 通 称 名 | リコール対象車の車台番号(シリアル番号)の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備 考 |
|-----|---------|----------|---|------------|-----|
| コマツ | W108 | WA100-5 | W108-70001~W108-70379 平成 15年 9月 1日~平成 16年 6月 21日 | 259 | |
| | SB-W108 | WA100-5 | W108-71008~W108-72026 平成 16年 6月 30日~平成 17年 8月 5日 | 344 | |
| | (計2型式) | (計 1 車種) | (製作期間の全体の範囲) 平成15年 9月1日~平成17年 8月 5日 | (計 603 台) | |

備考)本届出は、平成16年3月10日付け「届出番号1048」のリコール届出がなされたものについて、改善措置の内容が不十分であったため、改善措置の内容を見直し、再度対策を行うものである。

リコール対象車の主要諸元

| 車名 | 型式 | 通称名 | 種別・用途 | 車体の形状 | 原動機の型式 (総排気量 (cc)) | 備考 |
|-----|---------|---------|--------------|----------|-----------------------|----|
| コマツ | W108 | WA100-5 | 大型特殊 建設機械 | ショベル・ローダ | 4D102 (3,922) | |
| | SB-W108 | | | | | |

改善箇所説明図



静油圧変速機モータのピストンの強度が不足しているため、急な前後進の切換え操作を行うような走行を繰り返すと、当該ピストンが破損するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合、ピストンがシリンダブロックからはずれ、走行できなくなるおそれがある。

改善措置の内容: 全車両、静油圧変速機モーター式及びコントローラを対策品に交換する。

識別: 静油圧変速機モータのカバー端部に白ペイントを塗布し、識別する。

連絡先 自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL: 03-5253-8111 内線 42353
 アドレス <http://www.mlit.go.jp>

リコール届出一覧表

リコール届出日：平成17年 9月15日

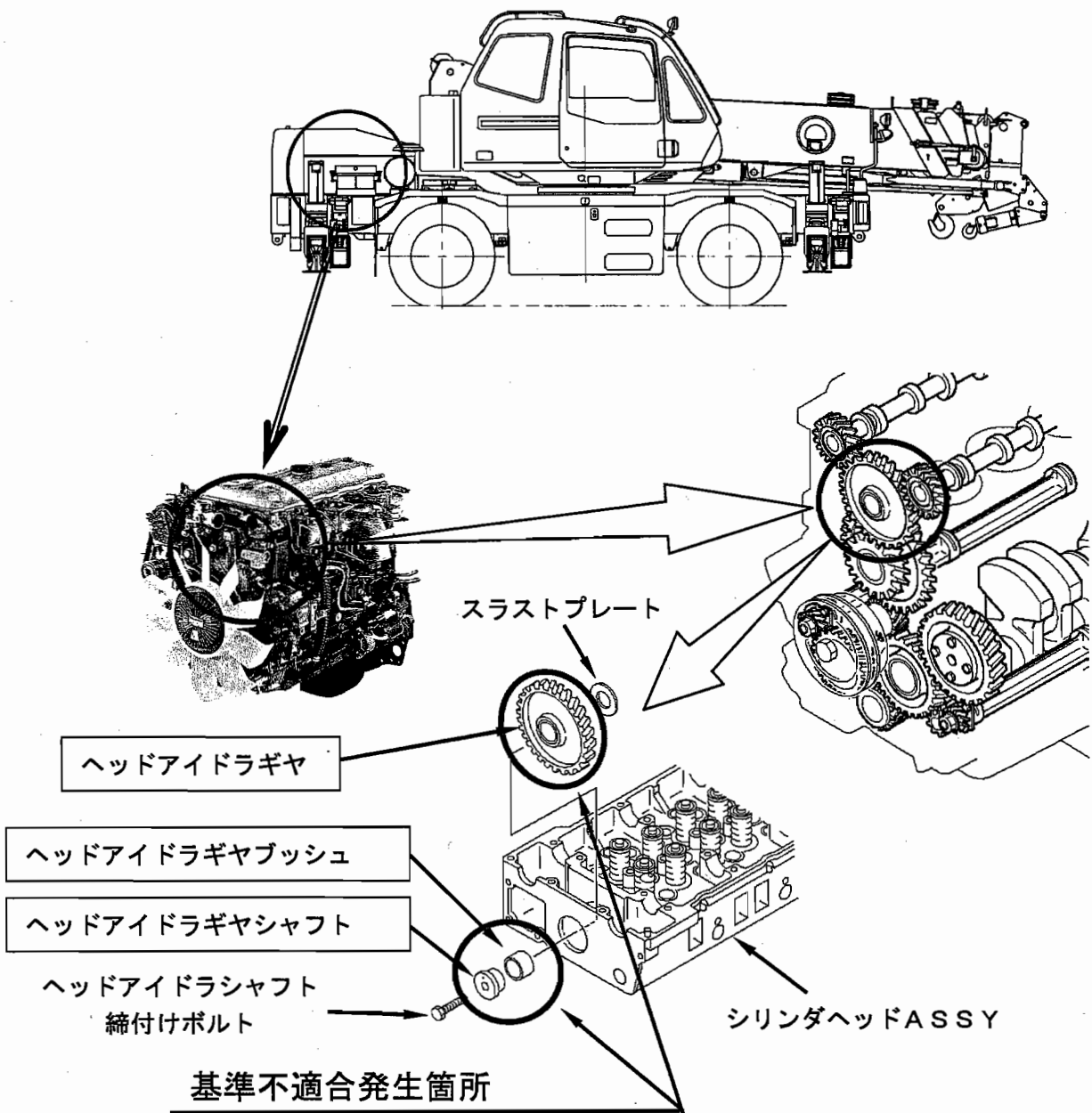
| | | | |
|----------------------------------|---|---------|-------------|
| リコール届出番号 | 1528 | リコール開始日 | 平成17年 9月16日 |
| 届出者の氏名又は名称 | 株式会社 タダノ 取締役社長 多田野 宏一 (問い合わせ先：品質安全部) TEL (087)894-7550 | | |
| 不具合の部位 (部品名) | 原動機 | | |
| 基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因 | 原動機のカムシャフト駆動用ヘッドアイドルギヤのブッシュの加工が不適切なため、当該ギヤの固定シャフトとブッシュの間にガタが生じ、シャフトつば部の付け根に過大な応力が発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、つば部が破損してギヤが周辺部品と干渉し、異音が発生する、又はエンジンオイルが漏れ、最悪の場合、当該ギヤの噛み合いが外れて、原動機が停止し再始動不能となるおそれがある。 | | |
| 改善措置の内容 | 全車両、アイドルギヤのブッシュを点検し、内径が規格を外れているものは当該ギヤ一式とシャフトを良品と交換する。 | | |
| 不具合件数 | なし | 事故の有無 | なし |
| 発見の動機 | 原動機製作会社からの情報による。 | | |
| 自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・使用者：使用者を直接訪問し通知する。 ・自動車分解整備事業者：全使用者を把握しているため、周知のための措置は取らない。 ・改善実施済車には、後面ガラス左下隅にNo. 1528のステッカーを貼付する。 | | |

| 車名 | 型式 | 通称名 | リコール対象車の車台番号 (シリアル番号) の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備考 |
|-----|--------|----------|--|------------|----|
| タダノ | TR120 | CREV0120 | TR120-0453~TR120-0476 平成15年8月8日~平成15年10月31日 | 24台 | |
| | (計1型式) | (計1車種) | (製作期間の全体の範囲) 平成15年8月8日~平成15年10月31日 | (24台) | |

(リコール対象車の主要諸元)

| 車名 | 型式 | 通称名 | 種別・用途 | 車体の形状 | 原動機の型式 (総排気量(CC)) | 備考 |
|-----|-------|-----------|-------|-----------|----------------------|----|
| タダノ | TR120 | CREVO 120 | 大型特殊 | ホイール・クレーン | 三菱4M50 (4,899) | |

改善箇所説明図



原動機のカムシャフト駆動用ヘッドアイドルギヤのブッシュの加工が不適切なため、当該ギヤの固定シャフトとブッシュの間にガタが生じ、シャフトつば部の付け根に過大な応力が発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、つば部が破損してギヤが周辺部品と干渉し、異音が発生する、又はエンジンオイルが漏れ、最悪の場合、当該ギヤの噛み合いが外れて、原動機が停止し再始動不能となるおそれがある。

改善の内容

全車両、アイドルギヤのブッシュを点検し、内径が規格を外れているものは当該ギヤ一式とシャフトを良品と交換する。

注 : は、交換部品を示す。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日:平成 17年 9月 22日

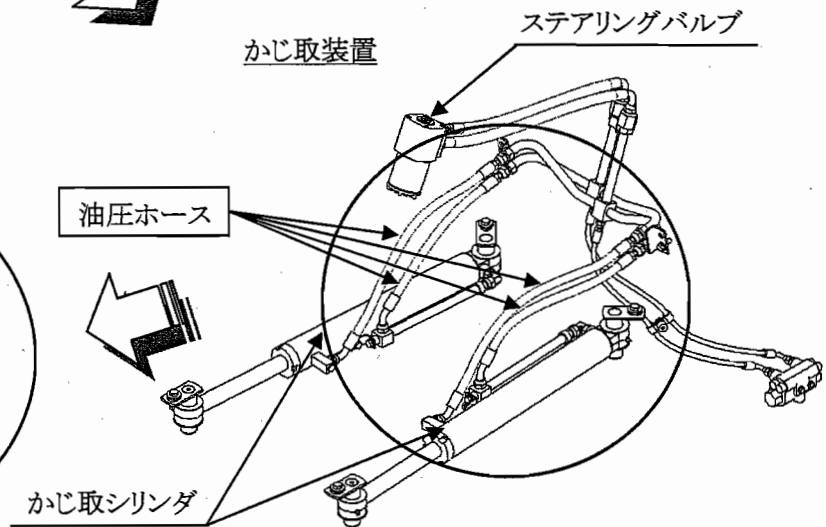
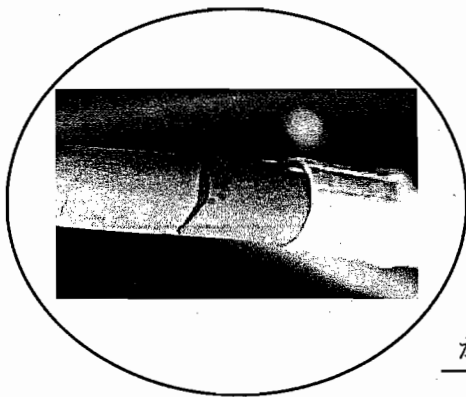
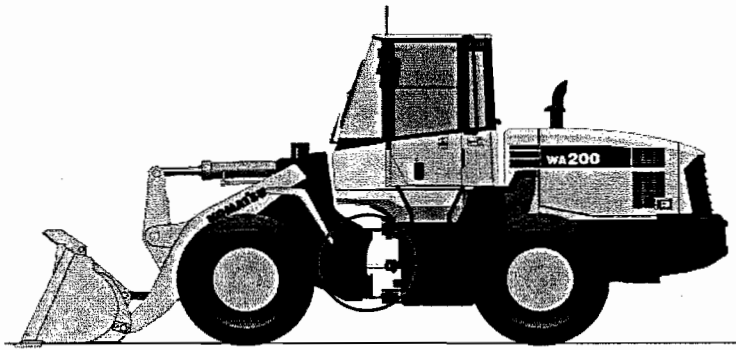
| | | | |
|----------------------------------|--|---|---------------|
| リコール届出番号 | 1521 | リコール開始日 | 平成 17年 9月 22日 |
| 届出者の氏名又は名称 | 株式会社 小松製作所 代表取締役社長 坂根 正弘 | 製作者名:株式会社 小松製作所 問い合わせ先:品質保証部 03-5561-2686 | |
| 不適合の部位(部品名) | かじ取装置(かじ取シリンダ油圧ホース) | | |
| 基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因 | かじ取シリンダの油圧ホースにおいて、表面の保護材の低温時における耐久性が不足しているため、旋回によるホースの振れの繰り返しの繰り返しにより表面に亀裂が入るものがある。そのため、そのまま使用を続けると、当該油圧ホースから作動油が漏れ、最悪の場合、かじ取操作ができなくなるおそれがある。 | | |
| 改善措置の内容 | 全車両、かじ取シリンダの油圧ホースを対策品に変更する。 | | |
| 不具合件数 | 17件 | 事故の有無 | 無し |
| 発見の動機 | 市場からの情報による。 | | |
| 自動車使用者及び自動車分解整備事業者への周知させるための措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・使用者を全て把握しており、直接電話等で連絡する。 ・自動車分解整備事業者への連絡は、使用者を全て把握しているため周知のための措置は特にとらない。 ・対策完了車については、ステッカ(No.1521)をキャブ内側の後部窓左下に貼り付ける。 | | |

| 車名 | 型式 | 通称名 | リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備考 |
|--------|---------|-------------|--|------------|----|
| コマツ | W104 | WA270-5 | W104-70001~W104-70454 平成14年9月24日~平成16年8月9日 | 56台 | |
| | SC-W104 | WA270-5 | W104-70501~W104-70945 平成16年8月24日~平成17年8月25日 | 67台 | |
| | W105 | WA320-5 | W105-60001~W105-60325 平成15年3月17日~平成16年8月25日 | 143台 | |
| | SC-W105 | WA320-5 | W105-60504~W105-60784 平成16年8月27日~平成17年8月25日 | 117台 | |
| | W109 | WA200-5 | W109-65001~W109-65426 平成15年7月2日~平成16年8月6日 | 117台 | |
| | SC-W109 | WA200-5 | W109-65501~W109-67090 平成16年7月8日~平成17年8月24日 | 147台 | |
| (計6型式) | (計3車種) | (製作期間の全体範囲) | 平成14年9月24日~平成17年8月25日 | (計647台) | |

リコール対象車の主要諸元

| 車名 | 型式 | 通称名 | 種別・用途 | 車体の形状 | 原動機の型式 (総排気量 (cc)) | 備考 |
|-----|---------|---------|--------------|----------|-----------------------|----|
| コマツ | W104 | WA270-5 | 大型特殊 建設機械 | ショベル・ローダ | 6D102 (5,883) | |
| | SC-W104 | | | | | |
| | W105 | WA320-5 | 大型特殊 建設機械 | ショベル・ローダ | 6D102 (5,883) | |
| | SC-W105 | | | | | |
| | W109 | WA200-5 | 大型特殊 建設機械 | ショベル・ローダ | 6D102 (5,883) | |
| | SC-W109 | | | | | |

改善箇所説明図 (W109 の例)



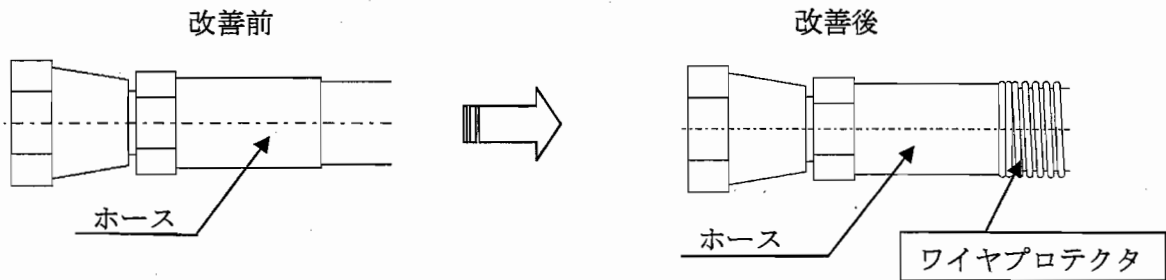
基準不適合箇所

注: は交換部品を示す。

かじ取シリンダの油圧ホースにおいて、表面の保護材の低温時における耐久性が不足しているため、旋回によるホースの捩れの繰り返しの繰り返しにより表面に亀裂が入るものがある。そのため、そのまま使用を続けると、当該油圧ホースから作動油が漏れ、最悪の場合、かじ取操作ができなくなるおそれがある。

改善措置の内容: 全車両、かじ取シリンダの油圧ホースを対策品に変更する。

識別: 対策品の外観形状で識別する。



連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日 : 平成 17年 9 月 22 日

| | | | |
|------------------------------------|---|---|-----------------|
| リコール届出番号 | 1524 | リコール開始日 | 平成 17年 9 月 22 日 |
| 届出者の氏名又は名称 | 株式会社 小松製作所 代表取締役社長 坂根 正弘 | 製作者名 : 株式会社 小松製作所 問い合わせ先 : 品質保証部 03-5561-2868 | |
| 不適合の部位(部品名) | 原動機(コネクティングロッド) | | |
| 基準不適合状態にあると認める 構造、装置又は性能の状況及び その原因 | 原動機において、ピストン及びクランクシャフトを連結するコネクティングロッド大端部付近の強度が不足しているため、高負荷運転の繰り返し荷重により、コネクティングロッド大端部付近より亀裂が発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合エンジンが破損し走行できなくなるおそれがある。 | | |
| 改善措置の内容 | 全車両、原動機を対策品と交換する。 | | |
| 不具合件数 | 2 件 | 事故の有無 | 無し |
| 発見の動機 | 市場からの情報による。 | | |
| 自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用者を全て把握しており、直接電話等で連絡する。 ・ 使用者を全て把握しているので自動車分解整備事業者に周知のための措置は特にとらない。 ・ 対策完了車には、ステッカ(No.1524)をキャブ後部窓内側左下または、後部左支柱内側上部に貼り付ける。 | | |

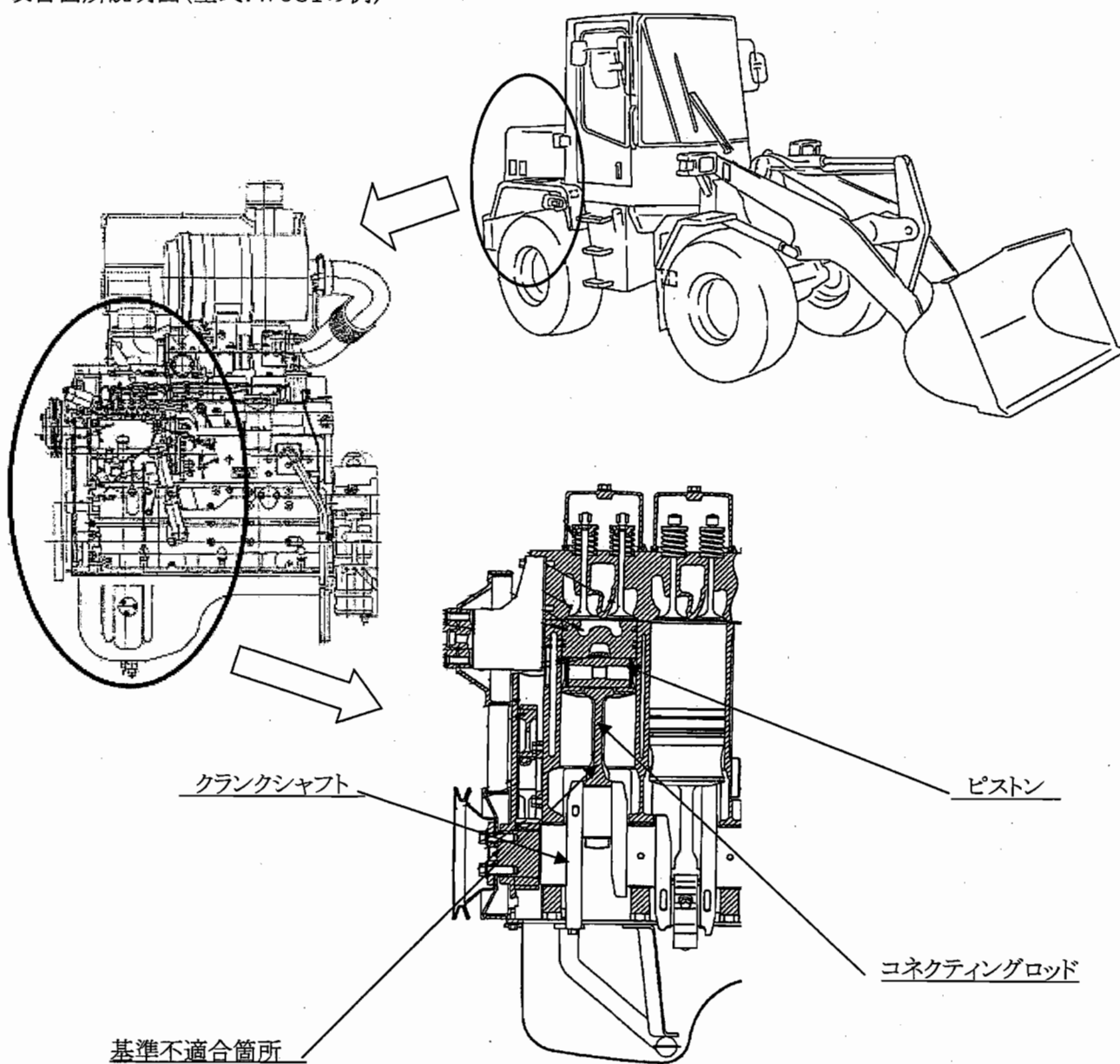
| 車名 | 型式 | 通称名 | リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備考 |
|----|--------|----------|--|------------|----|
| 小松 | G30A2 | GD305A-3 | G30A2-8015~G30A2-8017 平成 11年 3 月 23 日~平成 11年 3 月 23 日 | 2 | |
| | | GD355A-3 | G30A2-7030~G30A2-7042 平成 11年 4 月 5 日~平成 11年 9 月 1 日 | 12 | |
| | G40A3 | GD405A-3 | G40A3-5111~G40A3-5215 平成 11年 7 月 14 日~平成 11年 9 月 1 日 | 66 | |
| | G50A3E | GD505A-3 | G50A3E-2038~G50A3E-2040 平成 11年 3 月 15 日~平成 11年 11 月 1 日 | 3 | |

| 車名 | 型式 | 通称名 | リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備考 |
|-------|---------|-----------|---|------------|----|
| コマツ | PW1281 | PW128UU-1 | PW1281-1218～PW1281-1232 平成11年2月1日～平成11年8月27日 | 15 | |
| 小松メック | W057 | WA100-3 | W057-54399～W057-64070 平成11年2月3日～平成11年8月18日 | 187 | |
| | W081 | WA100M-3 | W081-10081～W081-11006 平成11年2月8日～平成11年8月8日 | 24 | |
| | W058 | WA150-3 | W058-63362～W058-64007 平成11年2月4日～平成11年8月9日 | 38 | |
| | W059 | WA200-3 | W059-63475～W059-64016 平成11年2月11日～平成11年8月18日 | 48 | |
| | | WA250-3 | W059-65042～W059-65042 平成11年4月7日～平成11年4月7日 | 1 | |
| | W067 | WA300-3 | W067-52005～W067-52017 平成11年2月11日～平成11年6月28日 | 6 | |
| | W065 | WA80-3 | W065-10718～W065-11018 平成11年2月4日～平成11年8月18日 | 55 | |
| | W083 | WR11-3 | W083-53001～W083-53011 平成11年3月11日～平成11年7月7日 | 5 | |
| | (計11型式) | (計13車種) | (製作期間の全体の範囲) 平成11年2月1日～平成11年11月1日 | (計462台) | |

リコール対象車の主要諸元

| 車名 | 型式 | 通称名 | 種別・用途 | 車体の形状 | 原動機の型式 (総排気量 (cc)) | 備考 |
|-------|--------|-----------|--------------|--------------|-----------------------|----|
| 小松 | G30A2 | GD305A-3 | 大型特殊 建設機械 | グレーダ | 4D102 (3,922) | |
| | | GD355A-3 | | | | |
| | G40A3 | GD405A-3 | | | 6D102 (5,883) | |
| | G50A3E | GD505A-3 | | | | |
| コマツ | PW1281 | PW128UU-1 | 大型特殊 建設機械 | ショベル・ ローダ | 4D102 (3,922) | |
| 小松メック | W057 | WA100-3 | 大型特殊 建設機械 | ショベル・ ローダ | 4D102 (3,922) | |
| | W081 | WA100M-3 | | | | |
| | W058 | WA150-3 | | | 6D102 (5,883) | |
| | W059 | WA200-3 | | | | |
| | | WA250-3 | | | | |
| | W067 | WA300-3 | | | | |
| | W065 | WA80-3 | | | 4D102 (3,922) | |
| | W083 | WR11-3 | | | | |

改善箇所説明図(型式:W081の例)



原動機において、ピストン及びクランクシャフトを連結するコネクティングロッド大端部付近の強度が不足しているため、高負荷運転の繰り返し荷重により、コネクティングロッド大端部付近より亀裂が発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合エンジンが破損し走行できなくなるおそれがある。

改善措置: 全車両、原動機を対策品と交換する。

識別: 原動機の左側のオイルクーラカバーに白ペンキを塗布し識別する。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日 : 平成 17 年 9 月 22 日

| | | | |
|------------------------------------|---|--|------------------|
| リコール届出番号 | 1525 | リコール開始日 | 平成 17 年 9 月 22 日 |
| 届出者の氏名又は名称 | 小松フォークリフト株式会社 代表取締役社長 渋谷 武男 | 製作者名 : 小松フォークリフト株式会社 問い合わせ先 : 品質保証部 0285-28-8750 | |
| 不適合の部位(部品名) | 原動機(コネクティングロッド) | | |
| 基準不適合状態にあると認める 構造、装置又は性能の状況及び その原因 | 原動機において、ピストン及びクランクシャフトを連結するコネクティングロッド大端部付近の強度が不足しているため、高負荷運転の繰り返し荷重により、コネクティングロッド大端部付近より亀裂が発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合エンジンが破損し走行できなくなるおそれがある。 | | |
| 改善措置の内容 | 全車両、原動機を対策品と交換する。 | | |
| 不具合件数 | 0 件 | 事故の有無 | 無し |
| 発見の動機 | エンジン製作者からの情報による。 | | |
| 自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用者:直接訪問して通知する。 ・ 自動車分解整備事業者:使用者を全て把握しているため周知のための措置は取らない。 ・ 対策完了車には、ステッカ(1525)をダッシュボード前面に取り付けてある社名板の上方に貼り付ける。 | | |

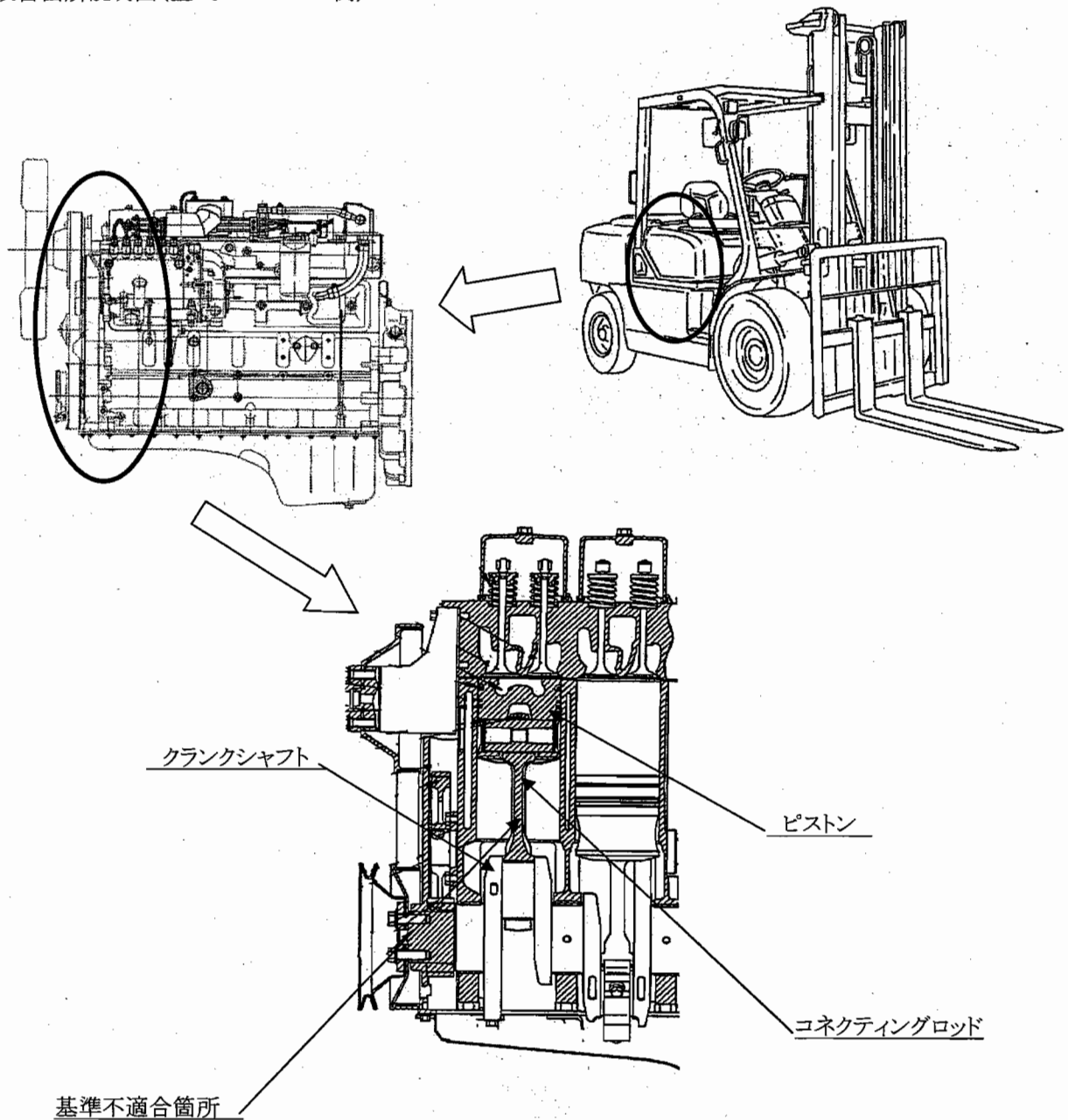
| 車名 | 型式 | 通称名 | リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備考 |
|----|------|----------|--|------------|----|
| 小松 | M161 | FD35NT-7 | M161-101681~M161-101780 平成 11 年 6 月 30 日~平成 11 年 8 月 11 日 | 2 | |
| | | FD35NW-7 | M161-101903 平成 11 年 9 月 23 日 | 1 | |
| | M163 | FD35T-7 | M163-101493~M163-101725 平成 11 年 3 月 19 日~平成 11 年 8 月 7 日 | 8 | |
| | | FD35W-7 | M163-101465~M163-101576 平成 11 年 3 月 10 日~平成 11 年 5 月 10 日 | 3 | |
| | | FD40T-7 | M163-101505~M163-101906 平成 11 年 3 月 26 日~平成 11 年 9 月 29 日 | 8 | |

| 車名 | 型式 | 通称名 | リコール対象車の車台番号の範囲及び 製作期間 | リコール対 象車の台数 | 備考 |
|----|--------|----------|--|----------------|----|
| 小松 | M163 | FD45T-7 | M163-101553～M163-101792 平成11年4月29日～平成11年8月19日 | 3 | |
| | | FD45W-7 | M163-101572～M163-101908 平成11年5月14日～平成11年9月29日 | 3 | |
| | M165 | FD50AT-7 | M165-101907 平成11年10月4日 | 1 | |
| | M166 | FD50HD-7 | M166-40588 平成11年6月1日 | 1 | |
| | | FD60HD-7 | M166-40534～M166-43615 平成11年3月12日～平成11年6月29日 | 3 | |
| | | FD70HD-7 | M166-40525～M166-43623 平成11年3月4日～平成11年7月20日 | 3 | |
| | M167 | FD80HD-7 | M167-43673 平成11年9月3日 | 1 | |
| | (計5型式) | (計12車種) | (製作期間の全体の範囲) 平成11年3月4日～平成11年10月4日 | (計37台) | |

リコール対象車の主要諸元

| 車名 | 型式 | 通称名 | 種別・用途 | 車体の形状 | 原動機の型式 (総排気量 (cc)) | 備考 |
|----|------|----------|-------------|--------|-----------------------|----|
| 小松 | M161 | FD35NT-7 | 大型特殊 自動車 | ホークリフト | 6D102 (5,883) | |
| | | FD35NW-7 | | | | |
| | M163 | FD35T-7 | | | | |
| | | FD35W-7 | | | | |
| | | FD40T-7 | | | | |
| | | FD45T-7 | | | | |
| | | FD45W-7 | | | | |
| | M165 | FD50AT-7 | | | | |
| | M166 | FD50HD-7 | | | | |
| | | FD60HD-7 | | | | |
| | | FD70HD-7 | | | | |
| | M167 | FD80HD-7 | | | | |

改善箇所説明図(型式: M163 の例)



原動機において、ピストン及びクランクシャフトを連結するコネクティングロッド大端部付近の強度が不足しているため、高負荷運転の繰り返し荷重により、コネクティングロッド大端部付近より亀裂が発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、最悪の場合エンジンが破損し走行できなくなるおそれがある。

改善措置: 全車両、原動機を対策品と交換する。

識別: 原動機のシリンダヘッドカバー上面に白ペンキを塗布し、識別する

連絡先 自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL: 03-5253-8111 内線 42353
 アドレス <http://www.mlit.go.jp>

リコール届出一覧表

リコール届出日：平成17年 9月29日

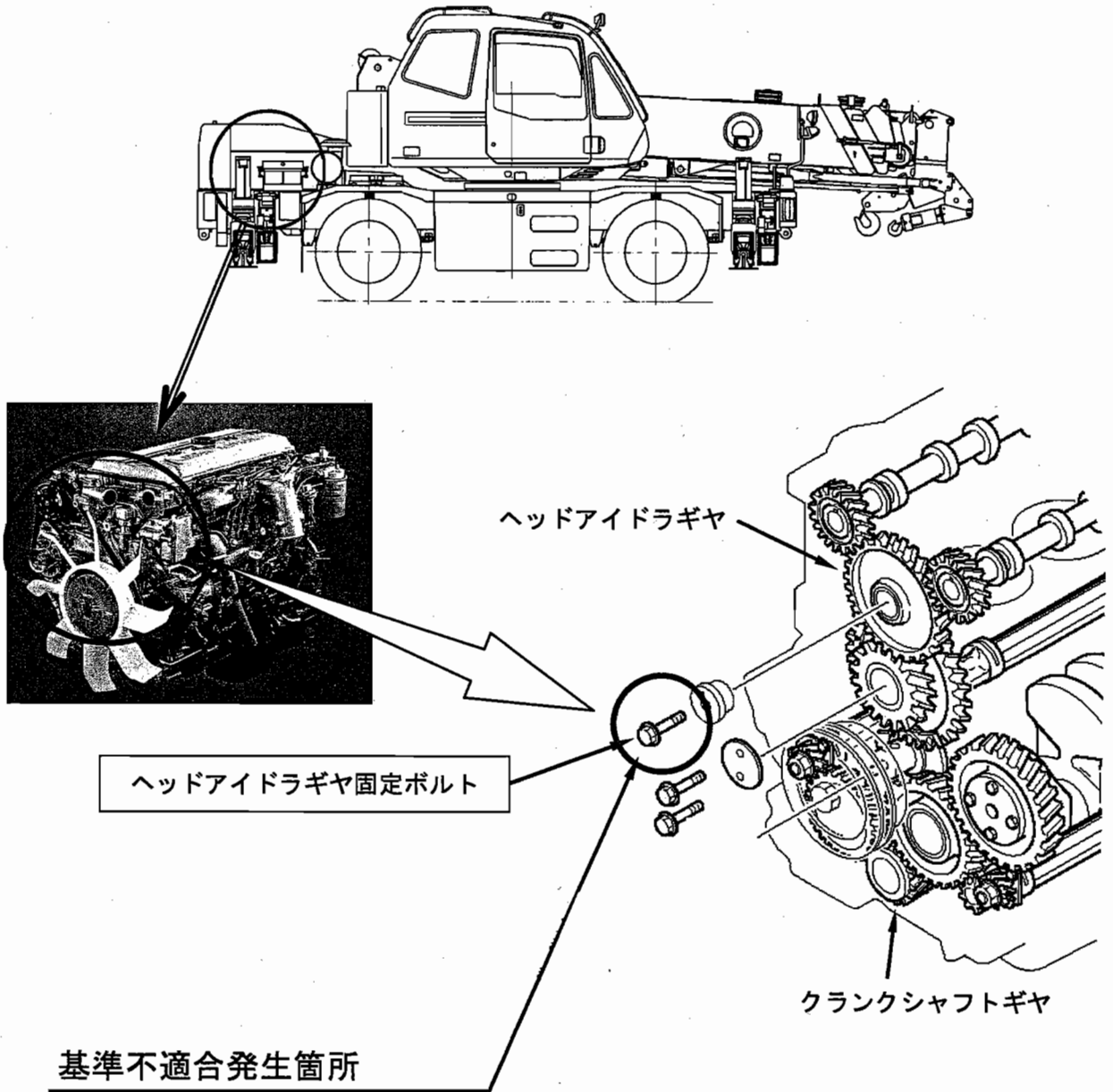
| | | | |
|----------------------------------|---|---------|-------------|
| リコール届出番号 | 1529 | リコール開始日 | 平成17年 9月30日 |
| 届出者の氏名又は名称 | 株式会社 タダノ 取締役社長 多田野 宏一 (問い合わせ先：品質安全部) TEL (087)894-7550 | | |
| 不具合の部位 (部品名) | 原動機 | | |
| 基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因 | 原動機のカムシャフトを駆動するヘッドアイドラギヤを固定するボルトの締付けが不足しているため、当該ギヤにガタが発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、ボルトに弛みが発生して、ギヤの噛み合いが不良となり異音が発生し、最悪の場合、当該ボルトが折損してギヤの噛み合いが外れて原動機が停止し、再始動不能となるおそれがある。 | | |
| 改善措置の内容 | 全車両、当該アイドラギヤを固定するボルトを対策品と交換し、当該ボルトを新たに設定した締付トルクで取付ける。なお、当該ボルトが緩んでいる場合は、アイドラギヤを新品と交換する。 | | |
| 不 具 合 件 数 | なし | 事故の有無 | なし |
| 発 見 の 動 機 | 原動機製作会社からの情報による。 | | |
| 自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置 | <ul style="list-style-type: none"> ・使用者：使用者を直接訪問し通知する。 ・自動車分解整備事業者：全使用者を把握しているため、周知のための措置は取らない。 ・改善実施済車には後面ガラス左下隅にNo. 1529のステッカーを貼付する。 | | |

| 車 名 | 型 式 | 通 称 名 | リコール対象車の車台番号 (シリアル番号) の範囲及び製作期間 | リコール対象車の台数 | 備考 |
|-----|--------|----------|---|------------|----|
| タダノ | TR120 | CREV0120 | TR120-0001~TR120-0291 平成12年1月15日~平成16年3月8日 | 290台 | |
| | (計1型式) | (計1車種) | (製作期間の全体の範囲) 平成12年1月15日~平成16年3月8日 | (計290台) | |

(リコール対象車の主要諸元)

| 車名 | 型式 | 通称名 | 種別・用途 | 車体の形状 | 原動機の型式 (総排気量(CC)) | 備考 |
|-----|-------|-----------|-------|-----------|----------------------|----|
| タダノ | TR120 | CREVO 120 | 大型特殊 | ホイール・クレーン | 三菱4M50 (4,899) | |

改善箇所説明図



原動機のカムシャフトを駆動するヘッドアイドラギヤを固定するボルトの締付けが不足しているため、当該ギヤにガタが発生するものがある。そのため、そのまま使用を続けると、ボルトに弛みが発生して、ギヤの噛み合いが不良となり異音が発生し、最悪の場合、当該ボルトが折損してギヤの噛み合いが外れて原動機が停止し、再始動不能となるおそれがある。

改善の内容

全車両、当該アイドラギヤを固定するボルトを対策品と交換し、当該ボルトのを新たに設定した締付トルクで取付ける。なお、当該ボルトが緩んでいる場合は、アイドラギヤを新品と交換する。

注：□ は、交換部品を示す。